

弔辞の人物説明文で用いられる「君」の変遷

—新聞・雑誌資料と比較して—

利岡真帆

1. はじめに

筆者はこれまで、明治以降の弔辞の言語特徴について研究してきた。弔辞には(1)(2)のように故人の情報や経歴などの説明をする際に、「君／あなた」を用いる場合がある。

- (1) 奈良学芸大学長従三位勲二等文学博士能勢朝次君がせい去され本日ここに学葬のいとなまれますことはまことに悲しいことであります。君は大正三年東京高等師範学校国語漢文部を卒業されて後京都帝国大学文学部国文学科に学びさらに同学大学院において研究を重ねられた篤学の士であります。

(1955年 文部大臣から大学長への弔辞『奈良学芸大学学報』(23)) [口語]¹⁾

- (2) 本日、本会名誉員福田烈殿のご葬儀に際し、社団法人溶接学会を代表して謹んで哀悼のことばを申し上げます。あなたは、大正7年東京帝国大学工科大学船舶工学科を卒業後ただちに佐世保海軍工廠に勤務され、爾来終戦を迎えるまで海軍に在られて(略)その発達に尽瘁されました。

(1967年 学会会長から会員への弔辞『溶接学会誌』(36-10)) [口語]

この「君／あなた」は一見、故人に対して語り掛ける対称詞の用法に見えるが、故人の情報を本人に対して述べるのは不自然であり、参列者に対して故人の説明をしていると考えられる。これは、故人が目の前にいるかのように演出する弔辞の一種の演出的な表現であるように思えるが、(3)(4)のような弔辞以外の資料からも同様の例がみられる。

- (3) 記者曰、櫻痴居士福地源一郎君は肥前長崎の人(略)君海外に遊ぶもの前後三次、専ら文墨に従事して、小説に脚本に史傳に述作極めて多し

(1895年 福地桜痴「大久保相摸守忠隣」『太陽』(1)) [文語]

- (4) 就中傑出せるものは第一房秘書許丙君である。君は明治四十四年台北国語学校を首席にて卒業せる俊才、年齒尚漸く而立に過ぎざるも林氏の信頼を得て林家諸事業に尽瘁するの傍、自らも振南会社其他の重役なる好乎の青年実業家である。 (1921年12月26日 「台湾の事業」『東京日日新聞』) [口語]

このように「君」は弔辞だけでなく、当時の一般読者を対象とした人物説明の記事などにおいても、先行文脈に現れる特定の人物を示す用法（文脈指示用法）で使用されている。そこで、本稿では明治以降の新聞・雑誌資料と弔辞資料を用いて、人物説明文における「君」の使用実態について明らかにする。

2. 人物説明文とその用法

対称詞の「君」に関する研究は永田（2015）など、性差や待遇差などを中心にこれまで多くの研究が行われてきた。しかし、本稿で扱う「君」は人物説明文で使われるものであり、説明される本人が聞き手であるとは想定できない。それよりも、第三者に対してある人物を「彼は～」のように説明していると考えの方が自然であり、対称詞とは異なると思われる。本章では、本稿の調査対象である人物説明文と、「君」の用法について確認する。

2.1 人物説明文とは

本稿で扱う「人物説明文」とは、(5)のように特定の人物の経歴や人柄などを紹介する文や、(6)の弔辞のように故人がどのように亡くなったのかという説明など、特定の人物に関する説明文を指す。

- (5) 北代君の後任として再任した岸本広吉君は海関長としては好評噴々たる人、(略)支那海関に君臨するの徳望と実力を有つ、従つて着任後の君は孜々として一般輸出入商のため事務手続きの改善に努めたが、時恰も戻税廃止による二重課税問題が突発した、(1932年7月1日 「大連海関物語」『満州日報』) [口語]
- (6) 本日茲に庶羞の奠を具えて恭しく元埴科地区警察署勤務故国家地方警察警部補高橋見次君 英霊に告げます (略) 棍棒投石等を以て激しく抵抗する彼等の集団に対し、挺身克くこれと格斗同僚の救出に努めたのでありますが、不意を狙つた一暴徒が棍棒を揮い君の右頭部を数回強打したため、不幸にも頭蓋骨

挫創の致命的重傷を受けてその場に昏倒、(略)翌一月二十日寒月凍る午前零時三十五分訪れ近い春に背いて溘焉と職に殉じたのであります。

(1951年 警察隊長から殉職した警部補への弔辞『旭の友』(3-56)) [文語]

2.2 文脈指示用法

本稿では対称詞と区別するために、人物説明文で使用する「君」の用法を文脈指示用法と呼ぶことにする。

文脈指示用法は現場指示用法と対になるもので、主に指示詞や人称代名詞の機能を説明する場合に用いられる概念である。現場指示用法が(7)のように同一空間を話し手と聞き手が共有する場面において、話し手が現実にも両者に知覚できる存在対象を指示するのに対し、文脈指示用法は(8)(9)のように相手または自分の表現内容にある素材を対象として指示する用法である。

(7) (お店の商品を指さして) 客「これください」

(8) A「1組の山田花子さんって知ってる？」

B「うん、知ってるよ。彼女がどうしたの？」

(9) 門の前に一人の男が立っていた。その男はわたしが出て行くと近づいてきた。²⁾

文脈指示用法をもつ語詞としては、指示詞・人称代名詞以外にも、(10)(11)のような「氏」や「同君」なども、先行文脈の人物を指示対象とする用法として現在でも使用されている。

(10) 本作の演出を担当するのは、映画『新・男はつらいよ』の監督も務めた小林俊一氏。田中美里さんは、氏のことを「監督」と呼んでいる。

(2003年 平岩正樹/松田正子『週刊現代』(45-41)/BCCWJ) [口語]

(11) 山田君には頗る賢明な母親があって、孝心の深い同君は百事其母親の指図を受けていたので私が本人を説き伏せるためには先づ其母親を説き落さねばならぬのであって又それが中々面倒であった。

(2005年 伊東聖子『作家・田沢稲舟—明治文学の炎の薔薇』/BCCWJ) [口語]

「氏」が人名に後接する敬称としての用法をもち、且つ単独で文脈指示用法の語

詞としても使用されるように、「君」にも人名に後接する用法があり、且つ明治・大正期には、「同」を伴わない単独の形でも、文脈指示用法を有していたと考えられる。

文脈指示用法の「君」の読みはその由来からすれば「くん」であろうが、(12) (13)のように同じ「文範」中の文脈指示用法の「君」に、「きみ」のルビが付されている箇所と「くん」のルビが付されている箇所があり、読みが定まっていなかったように見受けられる。³⁾

- (12) 我わが故こ陸軍歩兵上等兵りくぐん ほへいじょうとうへい ○○君くん⁴⁾ 夙つとに此この役えきに従したがひ深く満野まんやに転戦てんせんし、
○月ぐわつ○日にち奉天ほうてん附近ふきんの激戦げきせんに斃たほる、嗚呼あゝ悲哉かなしひかなしか、然いへどりと雖も君くんの死しや徒爾とじにあらず、

(尚武研究会編 (1905)『戦時送迎祝祭慰問文範』文陽堂) [文語]

- (13) 維時これときめい明治三十○年ねん○月ぐわつ○日じつ、○○出身しゆつしん故陸軍歩兵一等卒りくぐん ほへい とうぞつ ○○君くんの神葬祭しんそうさい
式しきを挙きよか行かうす、君きみは此年このとし○月げつ奉天ほうてん附近ふきんの大会戦だいくわいせんに於おいて名譽めいよの戦死せんしを遂とぐ、

(尚武研究会編 (1905)『戦時送迎祝祭慰問文範』文陽堂) [文語]

以下では、明治期から現在にかけての人物説明文における「君」の用例をたどり、新聞・雑誌資料と弔辞資料とを比較する。

3. 調査対象

3.1 新聞・雑誌資料

「君」の文脈指示用法は、硬い文体の人物紹介文で見られた。したがって、新聞や雑誌などの比較的硬い書きことばの資料を調査対象とした。また、筆者が収集した弔辞資料 (1894～2009) と比較するために同時代の以下のコーパス及びデータベースを対象とした。なお、日本語学会の (旧) 機関誌『国語学』を用いたのは、書評などで人物紹介が行われるため、当該の用例の有無を確認することができると期待されるためである。

- ① 国立国語研究所「日本語歴史コーパス 明治・大正編」(以下「CHJ」)

収録雑誌：明六雑誌 (1874・75) / 国民之友 (1887・88) / 女学雑誌 (1894・95)
/ 女学世界 (1909) / 婦人倶楽部 (1925) / 太陽 (1895・1901・09・
17・25)

検索条件：コア・短単位検索、書字形出現形「君」

(中納言 2.4.2 データバージョン 2018.03)

- ②神戸大学附属図書館デジタルアーカイブ「新聞記事文庫」(以下「新聞文庫」)(1911～1944)

検索条件：簡易検索、キーワード「君」 (2018年1-7月調査)

なお、「新聞文庫」に関しては記事数が膨大であったため、10年ごとに収集記事数の25%を調査対象とした。

- ③国立国語研究所「雑誌『国語学』全文データベース」(以下「国語学」)(1948～2004)

検索条件：簡易検索、本文、著者名、論文名のいずれかに「君」を含む

(2018年8月調査)

- ④国立国語研究所「現代日本語書き言葉均衡コーパス(通常版)BCCWJ-NT」(以下「BCCWJ」)(2001～2005)

検索条件：コア・非コア、短単位検索、書字形出現形「君」、新聞・雑誌

(中納言 2.4 データバージョン 1.1)

これらのコーパス及びデータベースによって収集した「君」から人物説明文で使用する文脈指示用法の「君」を抽出した。

3.2 弔辞資料

筆者はこれまで明治から現代にかけて公刊された公人(政治家、軍人、教育者、文化人等)に対する弔辞(457通)を収集⁵⁾してきた。本稿では、そのうち芸能人からの弔辞⁶⁾を除いた381通の弔辞を対象とする。また、弔辞においても、新聞・雑誌と同様に、「君」の用例から人物説明文で使用する文脈指示用法の「君」を抽出した。しかし、弔辞の「君」は対称詞と文脈指示用法の判断が非常に困難であった。

例えば、(14)(15)のように終助詞や命令形などを使用し、故人に対して語りかける対称詞としての使用と判断できるものもあるが、(16)(17)のように故人に対して語りかけているとも、参列者に対して説明しているとも考えられるものが数多くみられた。

- (14) 金澤君、君と一緒に学問ができて楽しかったよ。さようなら。

(2009年 恩師から教え子への弔辞『エコノミア』(61-1)) [口語]

(60)

(15) 尊く痛ましき最後を遂げられた広瀬貢先生！(略) 君、安んじて逃げ。

(1934年 小学校校長から教育者への弔辞『憶廣瀬少尉』) [文語]

(16) 謹んで公正取引委員会前委員長中山喜久松君の尊霊に捧げます。(略) 私共は君の偉業と感化とを受継ぎ、君のいわれた「民主化の一途こそ祖国愛に通ずる」ことを信念として、今後の業務の発展に努める覚悟であります。

(1952年 公正取引委員会委員長から前委員長への弔辞『公正取引』(10-29)) [口語]

(17) 本日、社団法人溶接学会名誉員松繩信太君のご葬儀に列し、本会を代表いたしまして謹んで弔辞を申し上げます。(略) 君を失ったことは溶接界にとりましても、わが国工業界にとりましてもまことに遺憾の極みであります。

(1966年 会長から会員への弔辞『溶接学会誌』(35-9)) [口語]

(16) では、故人に対して故人の遺志を引き継いでいくという決意のことばとも考えられるが、参列者に対して委員会の今後の決意を述べているとも考えられる。(17) は故人に対して故人がいなくなって残念だと心境を吐露しているとも考えられるが、参列者に対して故人のような素晴らしい人を失い業界にとって非常に大きな損失であると説明しているとも考えられる。

そのため本稿では、(16) (17) のようなどちらとも取れる用例は除き、(18) のような、故人本人に対して説明していると考えるのは不自然で、故人の情報を参列者に対して説明していると判断できるものだけを分析の対象とする。

(18) 虔みて故国家地方警察警部補高橋見次君の霊に告ぐ。君は明治四十五年一月十五日上田市に生る資性剛毅にして、篤実而も直情にして正しきと信じたることは飽く迄も貫徹するの信念に燃えたり。(略) 時偶々昭和二十六年一月十九日長野地方裁判所警備の為応援として、非常出動を命ぜらるるや、同僚と共に逸早く駆け付け、既に不穩化したる集団制禦の勤務につきたるが、(略) 中の一人が隠し持ちたる棍棒を以て矢庭に君の頭部を乱打するや、その他の兇徒も勢を助けて打つ蹴る毆るの兇暴を敢てし、為に君は右頭部に頭蓋骨挫創の重傷を被り、遂に其の場に昏倒するに至れり。

(1951年 警察共済会会長から殉職した警部補への弔辞『旭の友』(3-56)) [文語]

また、1950年ごろまでは約半数の弔辞で「君」が使用されていたが、その後減少していた。それに対し「あなた」は1950年ごろまではほとんど使用されていなかった。

たが、1951年以降から使用が増加していた⁷⁾ため、弔辞では「あなた」も調査の対象とした。

4. 調査結果

4.1 新聞・雑誌

新聞・雑誌の調査結果が表1である。表1では資料・使用年ごとに文脈指示用法の用例数及び記事数を示した。右端の調査記事数は各資料で調査した記事数（「君」を使用する記事数）である。また、田中（2005）のあげる以下の文末辞を指標とし、「君」を使用している文の文末によって文語体と口語体に分類した。

《指標とした文末辞》文語…なり、たり、あり、り、つ、ぬ、き、べし

口語…です、ます、ござる、である、だ、た

表1 新聞・雑誌における文脈指示用法の「君」の使用

	使用年	文語体		口語体		計		調査 記事数
		用例数	記事数	用例数	記事数	用例数	記事数	
CHJ (1874-1925)	1894	3	1	-	-	13	7	70
	1895	10	6	-	-			
新聞文庫 (1911-1944)	1916	17	5	-	-	32	10	3685
	1920	-	-	11	1			
	1921	-	-	1	1			
	1926	-	-	1	1			
	1928	-	-	1	1			
	1932	-	-	1	1			
国語学 (1948-2004)	1952	-	-	1	1	1	1	598
BCCWJ (2001-2005)	-	-	-	-	-	-	-	227

まず、「CHJ」では1894年の『女学雑誌』で1本の記事（3例）と、1895年の『太陽』で6本の記事（10例）で文脈指示用法としての「君」が使用されており、これらは全て文語体の記事であった。次に「新聞文庫」では、1916年の5本の記事（17例）が文語体の記事で使用されていたが、1920年から1932年までの5本の記事（15例）は口語体記事での使用であった。「国語学」では2004年までの記事が対象であるにもかかわらず、1952年の1本の記事しか確認できなかった。以下にいくつか

例を示す。

- (19) 金田君は、地質學專修の士なりと聞く、又君が主として研究したるは朝鮮の地質、及び地理等にありと云ふ。さればにや、君の宗教上に對する觀察は單に外形に止まるかの憾みあり。

(1894年 布川静淵「朝鮮宗教の将来」『女學雜誌』(43)) [文語]

- (20) 政友会の前代議士にして目下秋波を同志会に送りつつありとの噂ある高橋直治君を訪えり、赭顔、鬚髯、濁声、粗服の四句を以て尽されたる君の人格、小樽には最も相応しき男、熱心執着の人、而して文字書けぬ人とは思えぬ調査に長けたる人物なり、

(1916年6月6日「北海道觀(十三)札幌にて」『時事新報』) [文語]

- (21) 私の同級の親友の一人として今なほ敬愛している辻善之助君がある。君は三高からやはり一高に転じて來た俊秀な同級生であつて、(略)永續した学問上の利益を受けた事は莫大である。

(1952年 新村出「隨想」『国語學』(10)) [口語]

文体に関しては、1920年から口語体で使用されていた。これは、山本(1965)が述べた変化の時期(1910-1922)や、田中(2005)の『太陽』コーパスの文体変化の時期(1925年頃)⁸⁾と同時期である。そして、この時期から文脈指示用法の「君」の使用が減少し、1952年の例を最後にその後使用が確認できなかった。

また、「新聞文庫」などは調査した記事が多いにも関わらず文脈指示用法の「君」の使用は「CHJ」の結果とあまり変わらなかった。これは文体だけでなく「CHJ」に収録されている雑誌『太陽』が影響していると思われる。『太陽』では(22)のように、署名記事の論題・著者名と本文の間に著者の経歴等について編者が説明する箇所(以下、著者説明欄)が設けられることがあり、文脈指示用法の「君」の『太陽』の記事6本全てがこの著者説明欄で使用されていた。「CHJ」はこのような欄がある『太陽』を収録しているため、文脈指示用法の「君」の使用が比較的多かったと考えられる。

- (22) 【論題】家庭に於ける第一義 【著者名】醫學士 三島通良

記者曰、君は東京の人、明治二十二年帝國醫科大學を卒業して醫學士となり、直に大學院に入學して小兒科學を專修せらる、二十四年以來文部省の囑托に應

して現に學校衛生の取調に従事せらる、王制維新より以來、我國の教育は非常に長足の進歩を致しました。

【本文】(略) (1895年 三島通良「家庭に於ける第一義」『太陽』(1)) [文語]⁹⁾

下山(1987)が「ごく一般的にいきますと、弔辞の内容とするところは、故人の業績か、故人の人生あるいは人柄か、受けた恩義となりましょう。」と述べるように弔辞では基本的に人物説明文が述べられる。それに対し新聞・雑誌は特定の箇所では人物説明文が現れることがない。そのため、『太陽』の著者説明欄は非常に注目すべき箇所である。

そこで、「CHJ」のコーパスとは別に、『太陽』の著者説明欄について調査したところ、1895年1巻1号では著名記事55本のうち36本の記事(65.5%)で著者説明欄が設けられていた。しかし、同年1巻2号では43.2%と減少し、続く3号では37.5%、4号では22.2%と徐々に減少していた。さらに、1896年の2巻では10%前後、1897年の3巻では5%以下、1898年の4巻からはほとんど確認することができなかった。前号などで既に登場した著者やシリーズ化されている記事では省略される場合があり、その影響も考慮する必要はあるが、急激に著者説明欄が消えていた。なお、著者を指す形式は「君」単独使用が約8割、「○○君」のように接尾辞の形が約1割、その他ごく数例ではあったが「氏」「師」「伯」などが使用されていた。

このように、『太陽』では著者の経歴を述べる人物説明文(著者説明欄)がすぐに使用されなくなっていたが、少なくとも発刊当初は「君」を使用して著者を説明することが定型化していたことが分かった。

4.2 弔辞

弔辞の調査結果が表2である。右端の全弔辞数は今回対象とした381通の弔辞を年代ごとに分けて示したものである。1通の弔辞の中で何度も「君」または「あなた」を使用するものがあったため、弔辞数より用例数の方が多くなっている。なお、弔辞数の%はすべて右端の全弔辞数から算出した。

表3は用法など関係なく、故人の呼称を分類したものである。(そのため対称詞も含まれる)実数は弔辞の数を示しており、同じ弔辞の中で複数の呼称で呼ばれている場合はそれぞれの項目でカウントした。なお、「会長」「社長」「氏」「翁」なども使用されていたが少数であったため表では示さなかった。

表2 弔辞における文脈指示用法の「君」「あなた」の使用

	君						あなた						全弔辞数
	文語体			口語体			文語体			口語体			
	用例数	弔辞数		用例数	弔辞数		用例数	弔辞数		用例数	弔辞数		
(1894)・1910	32	23	56.1%	5	1	2.4%	—	—	—	—	—	—	41
1911-1930	126	45	57.7%	15	4	5.1%	—	—	—	—	—	—	78
1931-1950	114	31	45.6%	4	2	2.9%	—	—	—	—	—	—	68
1951-1970	11	2	2.0%	75	19	19.4%	—	—	—	13	8	8.2%	98
1971-1990	—	—	—	3	1	1.5%	—	—	—	9	4	5.9%	68
1991-2010	—	—	—	—	—	—	—	—	—	11	3	10.7%	28

表3 弔辞における故人の呼称

	君		○○君		あなた		先生		○○先生		○○さん		全弔辞数
	用例数	割合	用例数	割合	用例数	割合	用例数	割合	用例数	割合	用例数	割合	
(1894)・1910	32	78.0%	18	43.9%	—	—	7	17.1%	4	9.8%	—	—	41
1911-1930	53	67.9%	35	44.9%	1	1.3%	14	17.9%	12	15.4%	—	—	78
1931-1950	37	54.4%	25	36.8%	—	—	11	16.2%	11	16.2%	—	—	68
1951-1970	21	21.4%	21	21.4%	16	16.3%	41	41.8%	34	34.7%	12	12.2%	98
1971-1990	1	1.5%	5	7.4%	11	16.2%	56	82.4%	55	80.9%	10	14.7%	68
1991-2010	2	7.1%	3	10.7%	5	17.9%	23	82.1%	23	82.1%	8	28.6%	28

まず、表1の「君」の文体をみると、1950年ごろまでは文語体と口語体を比較すると、文語体での使用が多いが、1951年以降は口語体での使用が増えている。それに対し、「あなた」の文脈指示用法は1951年以降から口語体で使用されていた。つまり、主に文語体の「君」で使用されていた文脈指示用法が1951年以降から口語体の「君」または「あなた」で使用されるようになったのだ。そしてちょうどこの時期は弔辞の文体が変化した時期でもある。

弔辞の文体について調査した利岡(2017)によると、1936~40年は文語基調が92.3%、1941~45年は88.2%と文語基調が優勢であったが、1951~55年には口語基調が94.7%と口語基調が優勢になっており、弔辞の文体は1950年ごろに文語体から口語体へと移行したと考えられる。

また、表3を見ると、1951年ごろより用法に関係なく、「君」を使用した弔辞自体が減少しており、文体変化の影響が考えられる。そして、「君」が減少した時期から「あなた」が使用されはじめ、文脈指示用法も(23)のように「あなた」でも使用されるようになった。

- (23) 東正彦さん。私はいま、(略) 悲しみに、打ちひしがれています。想い起こしてみると、あなたは1968年8月、生涯大切にされた民間教育研究サークルの一つである技術教育研究会の第1回大会に参加されました。その3月に岩手

大学を卒業したばかりの、さっそうとした青年教師でした。

(1992年 研究会代表委員から友人の研究者への弔辞『技術と教育』(236)) [口語]

文脈指示用法の「あなた」の使用は「君」と比較するとあまり多くないが、これは表3を見て分かるように用法に関係なく「あなた」を使用した弔辞が1950年ごろまでの「君」よりも使用が少なく、また「君」のように敬称としての用法を持たないことが影響しているのではないだろうか。なお、1951年ごろからは「あなた」だけでなく、「先生」「○○先生」「○○さん」などの使用も増えていた。

新聞・雑誌と比較すると、弔辞のほうが調査した記事数(弔辞数)が少ないにも関わらず人物説明文における文脈指示用法の「君」の使用が多いことが分かった。また、新聞・雑誌が1920年ごろから使用数が減少していたのに対し、弔辞は減少しつつも一定数使用されており、さらに「あなた」という敬称の用法を持たないものにまで文脈指示用法が広がっていた。

弔辞で文脈指示用法の「君」あるいは「あなた」の使用が多い理由として、弔辞は故人の経歴などを述べる人物説明を目的とする資料であるのに対し、新聞・雑誌は必ずしもそれを必要としないという目的の差が関係しているように思う。また、下山(1987)で「弔辞は、故人の霊前で故人に捧げる弔いの言葉。」と言われるように、弔辞は故人に対して語りかけるというスタイルを基本としており、参列者に対して故人の説明をする際に「君」という文脈指示用法と対称詞の両方を併せ持つ語を使うことにより、聞き手は参列者でありながらも故人に語りかけているように演出できるのだ。以上のように弔辞は「君」の文脈指示用法が使用されやすい環境にあったと考えられる。

さらに、弔辞を読む人は弔辞の依頼を受けてから葬儀まで時間があまり無いため、マナー本などを参考にして弔辞を書くのだが、文体が変化する時期は文語体で書かれた弔辞を参考に口語体で書いていたと思われ、その際に「君」と書かれている箇所を「あなた」に置き換えてそのまま文脈指示用法が使用されたと考えられる。

5. おわりに

本稿では、人物説明文における文脈指示用法の「君」の使用について、新聞・雑誌と弔辞とを比較した。まず、新聞・雑誌では少数ながらも使用を確認することができた。しかし、文体が変わった1920年ごろからは使用が減少し、その後ほとんど

ど使用されていなかった。

それに対し弔辞は比較的多くの使用を確認することができ、さらに現在では形式を変えて使用されていた。その理由として3つのことが考えられる。

まず1つ目は弔辞の目的である。弔辞は故人の経歴や功績、人柄など人物紹介をすることが目的の1つであるため、使用が多かったと思われる。2つ目は、弔辞が読まれる環境である。弔辞は祭壇や遺影に向かって読まれることが多く、基本的には故人に向かって話しかけるスタイルを取る。しかし、その場には参列者がいるため、参列者を意識したものになる。そこで、聞き手を故人にも参列者にもできる「君」が好まれて使用されていたと考えられる。3つ目は、弔辞を作成する際の環境である。弔辞は儀礼文であり、型があるため、各自がオリジナルで作成するのではなくマナー本などを参考にして作られる。その際に文語体で使用されていた「君」を「あなた」と形式を変えて使用したと考えられる。

注

- 1) 例文では2.2で説明する文脈指示用法の指示対象を下線で示し、指示語を囲み線で示す。他の例も同様に示す。
- 2) 田中（1981）p25の例を引用。
- 3) 今回「新聞文庫」で調査した新聞10本中8本で文脈指示用法の「君」に「きみ」とルビが付されており、この頃には既に読み方の混同が起きていたと考えられる。
- 4) 原文ママ。(13)の「〇〇」に関しても原文ママ記載する。
- 5) 国立情報学研究所「Citation Information by NII、NII 学術情報ナビゲータ (CiNii)」、独立行政法人科学技術振興機構「J-STAGE」、国立国会図書館「国立国会図書館デジタルコレクション」、関西大学に所蔵されている伝記や哀悼録の類や、一般向けに出版社から刊行されている弔辞集から収集した。
- 6) 芸能人の弔辞は、たとえば、次の例のように特殊なものが多い。
優作……。俺は今までお前が死ぬとこを何度も観てきた。そしてその度にお前は生き返ってきたじゃないか。役者なら生き返ってみろ！生き返って出てこい！
(1989年 原田芳雄から松田優作への弔辞『弔辞』)
- 7) ここでの「君」「あなた」は文脈指示用法と対称詞の両方を含む。
- 8) 新聞・雑誌の文体は山本（1965）によると、1910-1922 ごろには（一部の官庁公用文や法令文、詔書は除く）新聞の全紙面が言文一致化されたとある。また、『太陽』コーパスも、田中（2005）表10によると1901年までは文語記事率73.5%と文語

の方が多かったが、1909年ごろから少しずつ口語の方が多くなり、1917年には口語記事率70.4%、1925年には93.9%と口語の記事が多くなっていた。これについては田中(2005)も「1895年では大半が文語記事であるが、年次を追うごとに、次第に口語の比率があがっていき、1925年では大半が口語記事になっている」と述べていた。以上より、新聞・雑誌は1920年代ごろに文体が変化したと考えられる。

9) 【 】は筆者による補足である。

参考文献

- 下山丈三(1987)『弔辞〈葬儀での挨拶〉』金園社
 正保勇(1981)「「コソア」の体系」『日本語教育指導参考書8 日本語の指示詞』
 国立国語研究所
 田中望(1981)「「コリア」をめぐる諸問題」『日本語教育指導参考書8 日本語の
 指示詞』国立国語研究所
 田中牧郎(2005)「言語資料としての雑誌『太陽』の考察と『太陽コーパス』の設
 計」国立国語研究所編『雑誌『太陽』による確立期現代語の研究—『太陽コーパ
 ス』研究論文集—』博文館新社
 利岡真帆(2017)「弔辞の文体変化」『国文学』(101) 関西大学国文学会
 永田高志(2015)『対称詞体系の歴史的研究』和泉書院
 堀口和吉(1978)「指示語の表現性」『日本語・日本文化』(8) 大阪外国語大学
 山本正秀(1965)『近代文体発生の史的研究』岩波書店

(としおか まほ／本学大学院生)